

## 経営学部創設20周年記念号刊行によせて

桃山学院大学・経営学部は、1973年（昭和48年）4月に開設された。本年度で創設20周年を迎える。最初にまず、本学経営学部の今日の隆盛をもたらした教職員、学生、教育後援会関係者らに対し、その労を多としたい。

経営学部は、当初、学生定員200名でスタートした。その後今日まで、日本経済の成長は、めざましいものがあった。それに応じて、経営学部でも、学生の定員増をはかり、カリキュラムに改訂をほどこしてきた。

現在、経営学部の学生定員は、380名にまで増大している。カリキュラムも、情報化社会・国際化社会への進展に即応して編成されている。たとえば、本学部で学ぶ学生に系統的・総合的学識を修得してもらおうべく、専門教育科目は、①企業経営コース、②経営情報コース、③会計コースの、3分野に類別され履修されるに至っている。

各コースとも、難易度に応じた学年別学科目配置にまで、意が払われている。柔軟な専門的知識をもち、総合的判断のできる企業人育成を目指してのことであることは、言うまでもない。

時あたかも、本年、経営学部を基礎とする大学院経営学研究科（修士課程）が開設された。大学院は、桃山学院大学開学34年来の悲願だった。それだけに、大学院の開設は、経営学部創設20周年をも記念するにふさわしい〈快挙〉だったとあってよからう。まこと、慶賀にたえない。

情報化社会、国際化社会への進展の過程で、企業の経営活動はますます複雑となり、困難さをいや増している。経営学の、学部レベルを超える教育・研究ニーズが、日増しに高まりつつある。大学院経営学研究科の設置は、そうした「時代の要請」に応えんとしたものとも、言えよう。

それよりも何よりも、文部省への大学院経営学研究科設置申請を契機として、本学経営学部の研究活動は、大いに〈活性化〉した。それは、先発・経

済学部スタッフの研究をも、刺激しないではすまなかった。学部内外の関係者が、等しく認めるところである。こうした「大学院効果」の拡がりの大きさは、予想外だった。喜ばしいかぎりである。

本記念号にもられた諸論考も、本誌経済経営学会員になる研究の活性化を、如実に示している。力作をものされた寄稿者、編集関係教職員に対し、ここに、心から敬意を表したい。

経営学部長 チョン 全 ジェ 在 ムン 紋